

下水道のことで知ったこと

上野 美莉依

水巻町立 猪熊小学校

私は、社会科の学習で下水道のことについて、くわしく学びました。

下水道のことを知るまでは、水を使ったらどこにいくのかなと思っていて、その先のことは、ぜんぜん考えたことがありませんでした。

でも、下水道のしくみや、水をきれいにするための工夫を学んで、今まで気づかなかった大切なことがだんだん見えてきました。

中でも、3つの実験を通して、私は下水道の大切さや、水のよさをなくすためにできることを深く考えることができました。

1つ目の実験では、下水に入るゴミをどのように取りのぞくかを体験するものでした。わたしたちは、水の中にいろいろな大きさのゴミを入れて、ザルやネットを使って分けました。大きなゴミはすぐに取りましたが、細かいゴミやドロドロしたものは、なかなか取ることができませんでした。この実験で、下水にゴミを流すことが、どれだけいけないかが、よくわかりました。また、下水処理場でも、まず大きなゴミを取りのぞく作業をしていると聞いたので、家でもゴミを流さないように気をつけようと思いました。

2つ目の実験では、よごれた水のにごりを沈めるというものでした。わたしたちは、にごった水に「みようばん水」を入れて、時間をおいて観察しました。すると、少しずつゴミが下にしずんで、上

の水が少しずつきれいになっていきました。びんの中で水が変化していく様子がよくわかり、まるで小さい下水処理場のようでした。この実験で、水をきれいにするためには、時間やてまがかかることや科学の力も使われていることが分かりました。

3つ目の実験では、びせいぶつを使って、よごれた水をきれいにする仕組みを学びました。下水処理場は、「かつせいおい」というたぐさんのびせいぶつが、水の中のよごれを食べてくれるそうです。小さな生きものが、せつせとがんばって働いてくれることを知って、おどろきとともに、感しやの気持ちがありました。ぜんぜん見えないけど、小さな生き物ががんばって、たぐさんの力で水がきれいにされていることが、よくわかりました。

3つの実験を通して、わたしは、下水道が、どれだけわたしたちの生活を支えてくれていることが、わかりました。水は使ったあとでも、たぐさんの時間と手間をかけて、また自然にかえっていきます。わたしたちは、今まで、何も考えずに水を流していましたが、これからはゴミを流さないようにしたり、使いすぎたりしないように、気をつけようと思いました。

わたしたちのために、水をきれいにしている人たちや自然の力、びせいぶつなど、たぐさんの「見えない力」にありがとうと、感しやの気持ちを伝えたいです。

この学習をきっかけに、わたしも水や自然を大切にしていきたいと思いました。